

御嶽山噴火7年 犠牲を繰り返さぬために

年 組 番 名前

死者58人、行方不明者5人を出した御嶽山の噴火から7年がたちました。噴火の様子を知り、二度とこうした災害がないように、火山に関わる人や団体は何をしたらよいのか、記事を読み取りましょう。

① 次の(ア)～(オ)のカタカナには漢字を、漢字には読み仮名を書きましよう。

(ア) トツジョ

(イ) ソウサク

(ウ) フウカ

(エ) 緩和

(オ) ミリヨク

ダ
ル
ミ

② 噴火した際、広い山頂部の中でも火口東側の「八丁ダルミ」に被害が集中したのは、なぜですか。

③ 御嶽山の噴火による犠牲を二度と繰り返さないために、王滝村が具体的に進めていることを二つ挙げましよう。

④ 県と木曾町が、御嶽山の登山口と麓にビジターセンターを開設する目的は、何ですか。

⑤ 改めてかみしめるべき当時の経緯とは、どんなことですか。

社説

2021.9.27

御嶽山噴火7年

犠牲を繰り返さぬために

御嶽山の噴火からき
ようで7年になる。

土曜日の昼、快晴の
下で景色を楽しんでい

た山頂一帯の登山者が
トツゴ

ア、噴石や熱風に襲
われた災害だ。

死者58人、行方不明者5人。家
族や友人が今年も、慰霊や①の

ため現地を訪れている。

大切な人を失った人たちが、も
う誰にも悲しい思いをしてほしく

ないと強く願っている。

年月を経て、地元などからは記
憶の②を懸念する声も聞かれ始

めた。犠牲を一度と繰り返さない
ために何をすべきか。

政府、自治体、研究機関、観光
や登山の関係者、地元住民など、

火山に関わる人や団体全てが、火
山防災に果たす役割を再確認しな

ければならない。

広い山頂部の中でも被害が集中

した場所がある。火口東側の「八
丁ダルミ」がその一つ。

吹きさらしのなだらかな斜面が
続き、噴火時に身を守るのが難し

い。17人の犠牲者を出した。

2014年の噴火後、静穏化に
合わせて山頂・剣ヶ峰など頂上一

帯の立ち入り規制は解除が進んだ
が、ここはまだ規制が続く。

地元の王滝村は今年、慰霊のた
めの遺族の立ち入りを初めて許可

した。シェルター（退避壕）の整
備を進め、一般向けには来年秋の
規制緩和を目指す方針だ。

王滝側から山頂に直登できる八
丁ダルミの登山道は、村観光の生

命線と言われる。通れるようにな
れば、噴火災害で落ち込んだ登山

客数の回復が期待できる。

ただ、噴火災害を経験した人や
犠牲者の遺族の中には、シェルタ

ーを設けてもなお高い危険性に不
安を感じる人もいる。

村はパトロールの充実などソフ
ト面も充実させる。規制緩和は慎

重な見極めが欠かせない。

県と木曽町はいま、御嶽山の登
山口と麓にビジターセンターを開

設する準備を進めている。

噴火災害のドキュメント映像や
被災者の証言を紹介するほか、歴

史や文化など木曽地方の③も発
信する計画になっている。

噴火を伝え、訪れた人に火山防
災を自らのこととして考えてもら

うための施設だ。活用や展示につ
いて、さらに深めてほしい。

7年前の噴火では、前兆とも受
け取れる現象が御嶽山の地下で発

生し、それを気象庁が観測してい
たのに、地元自治体が危機感を共

有することはなかった。

当時の経緯を改めてかみしめ、
地元自治体や観光関係者が火山に

ついて理解し伝えていくことの意
義を、見つめ直したい。

(2021年9月27日朝刊・論面〈社説〉)

御嶽山噴火7年 犠牲を繰り返さぬために

解答例

年 組 番 名前

死者58人、行方不明者5人を出した御嶽山の噴火から7年がたちました。噴火の様子を知り、二度とこうした災害がないように、火山に関わる人や団体は何をしたらよいのか、記事を読み取りましょう。

① 次の(ア)～(オ)のカタカナには漢字を、漢字には読み仮名を書きましよう。

(ア) トツジョ

(イ) ソウサク

(ウ) フウカ

(エ) かんわ

(オ) ミリヨク

(カ) 緩和

(キ) ミリヨク

(ク) 魅力

(ケ) ミリヨク

(コ) ミリヨク

② 噴火した際、広い山頂部の中でも火口東側の「八丁ダルミ」に被害が集中したのは、なぜですか。

【解答】 吹きさらしのなだらかな斜面が続き、噴火時に身を

守るのが難しいから

③ 御嶽山の噴火による犠牲を二度と繰り返さないために、王滝村が具体的に進めていることを二つ挙げましょう。

【解答】 シェルター(退避壕)の整備

パトロールの充実

④ 県と木曾町が、御嶽山の登山口と麓にビジターセンターを開設する目的は、何ですか。

【解答】 噴火を伝え、訪れた人に火山防災を自らのこととして考えてもらうため

⑤ 改めてかみしめるべき当時の経緯とは、どんなことですか。

【解答】 前兆とも受け取れる現象が御嶽山の地下で発生し、

それを気象庁が観測していたのに、地元自治体が危機感を共有することがなかったこと